

2022年度 カリキュラム科目概要

文化服装学院教務部

科コード	KC2	科名	アパレルデザイン科 2年	単位	4単位
科目コード		科目名	ファッションデザイン画	授業期間	通年

担当教員(代表) : 岡本あづさ

共同担当者 :

【授業概要、到達目標・レベル設定】

学生のデザインに対するアイデアの可能性を様々な角度から探り、考え展開していく事を目標とする。前半はデザインテーマをいくつか設定し、イメージソースからデザイン展開を考えデザイン表現をする楽しさを実感していく。各種画材のテクニックを学ぶ事で基礎から応用へと進展させ、後半は独自の発想(イメージ)をより具体的に表現できる実力を身に付け各自のテーマに沿った表現、展開をしていく。プレゼンテーションの方法、伝える手段としてのアプローチの方法を常に考えながら表現していく事を目標とする

【授業計画】

I オリエンテーション(4コマ) 「まるいもの」	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラム説明 「まるいもの」という同一テーマからの展開の可能性デザイン展開を考える。
II ポーズ・ プロポーションの確認(4コマ)	<ul style="list-style-type: none"> ・苦手なポーズの表現の習得 デザインに合わせたポーズが選択できる様に表現の幅を広げる
III 縫製テクニック(6コマ)	<ul style="list-style-type: none"> ・各自のデザイン表現の上で注目する縫製技法を選択。 フリーツ、ギャザー、ドレープなどの様々な技法のアイデアをプラスしデザイン展開の可能性を広げていく
IV 紙からのデザイン展開(6コマ)	<ul style="list-style-type: none"> ・A4紙を使用し創り出した「立体や形」からイメージを膨らませテクニスタイルやフォルムへと展開しデザインへと繋げて行く
V 「色」からのデザイン展開(6コマ)	<ul style="list-style-type: none"> ・「色」の持つパワーと意味、受ける印象、惹きつけられる意味を考えデザインへと展開していく
VI 「キーワード」(6コマ)	<ul style="list-style-type: none"> ・「キーワード」からイメージするものを様々な角度から調べそこからデザイン展開へと広げて行く
VII 「モチーフ」(6コマ)	<ul style="list-style-type: none"> ・自然物、自鉱物、あらゆるモノの中から気になる「モチーフ」を選択し、1/2のボディを使用しそのモチーフからリアルなデザイン展開を探る
VIII 「校内ファッション画展(8コマ)	<ul style="list-style-type: none"> ・オリジナルのデザインアイデアを習得した技術を使用し構成を工夫し表現としてまとめていく
IX 「自由テーマ」からのデザイン展開(4コマ)	<ul style="list-style-type: none"> ・最終課題として、各自自由なデザインテーマを設定し、デザインの可能性を考える

【評価方法】

評価基準：学業評価80%、授業姿勢20%

主要教材図書

参考図書 各分野での展示カタログやアーティストの作品集、ファッション誌、雑誌等。

その他資料 卒業生の参考作品など YouTube動画（デザイン画テクニック）

授業の特徴 2年次で4単位という時間を有効に、いろんな角度のアイデアからどんなデザインを生み出し、具体化できるのかを考えて行く。常に思考し、模索していける様実験的な課題を多く取り入れて行く

担当教員紹介 学院卒業後デザイン画講師として活動。（文化服装学院 / 文化学園大学短期大学部 / 文化ファッション大学院大学）その他、ユニフォームイラスト、ファッションイラストの仕事を手がけ、個展も開催2017年にはファッションイラストとして初めてイラストが日本郵便局から切手が発売された
2020年から「ファッションドローイング」のYouTubeチャンネル「ADUSA' s design drawing technique」をスタートさせる

記載者氏名 岡本あづさ

科コード K02	科名 アパレルデザイン科2年	単位	1
科目コード 501900	科目名 服飾デザイン論Ⅱ	授業期間	前期

担当教員(代表)：天野豊久

共同担当者：

教育目標・レベル設定など

1年次『服飾デザイン論』で学習した色彩の知識を基礎とし、色彩をファッションデザインに展開するための技術や考え方を学習する。

授業概要＝テーマ(大・中・小項目)、方法(講義・演習・実験・リサーチ・グループ活動など)、製作物、
テーマ別所要コマ数、他科目との関連性、使用パソコンソフト名・ボディ種類、見学先、

- | | | | |
|-----------------------|----------|---|---------------|
| 1. 導入 | 導入 | 色彩のはたらき | 〈講義 1コマ〉 |
| 2. 概論 | 産業と色彩 | 産業における色彩の役割
流行色のしくみ | 〈講義 1コマ〉 |
| 3. ファッションカラーコーディネーション | | 色相・トーンによる配色
ファッションカラーコーディネーション
トーン・オン・トーン/フォ・カマイユ
トーン・イン・トーン/コンプレックスハーモニー
色彩構成とデザイン展開 | 〈講義および演習 6コマ〉 |
| 4. イメージと色彩 | | 色彩の心理的効果/色の連想・象徴
ファッションイメージと配色
イメージからのデザイン展開 | 〈講義および演習 3コマ〉 |
| 5. 色彩計画 | カラーデザイン① | コンセプト、テーマの策定 | 〈講義および演習 4コマ〉 |
| | カラーデザイン② | イメージ構築、カラーパレットの展開 | |
| | カラーデザイン③ | カラーバリエーションの展開 | |

評価方法・対象・比重

S・A～C・F評価 評価基準：学業評価70% 授業姿勢30%

主要教材図書

文化ファッション体系服飾関連専門講座9『服飾デザイン』(文化服装学院編/文化出版局)

参考図書 特になし

その他資料 Color Chart, ベーシックカラー140

授業の特徴と担当教員紹介

演習を中心とする。

天野豊久 東京造形大学造形学部美術学科卒 日本色彩学会会員

記載者書名欄 天野豊久

2022年度 カリキュラム科目概要

文化服装学院教務部

科コード	KC3	科名	アパレルデザイン科3年	単位	1
科目コード	903200	科目名	プレゼンテーション論・演習	授業期間	前期

担当教員(代表) :	小林 大輔 Die-co★(ダイコ★)	共同担当者 :	
------------	---------------------	---------	--

教育目標・レベル設定など

これからのデザイナーにもっとも必要で、且つ日本でファッションを学ぶ学生達が一番欠けているコミュニケーション能力を高める事を目指す授業です。

【授業計画】

テーマ(大・中・小項目)、方法(講義・演習・実験・リサーチ・グループ活動など)、製作物、テーマ別所要コマ数、他科目との関連性、使用パソコンソフト名・ボディ種類、見学先

最終プレゼンテーションにむけ、各自の考えや想いをテーマに新作作品制作を行う。

作品の撮影、プレゼンテーションの為にコンセプトリサーチや資料制作等の実習と、各学生の掘り下げたいプレゼンテーションの組み立て、構成。発表のテクニックのアドバイスを、カウンセリングを含めながら授業を進めて行く。

最終授業時で4分間のプレゼンテーションを行う。

1～5コマ 1回目の個人カウンセリング
 6から10コマ 2回目の個人カウンセリング
 11から14コマ 最終プレゼン発表

評価方法・対象・比重

出欠席、作品、全コマ数終了時に各、数分間の時間でプレゼンテーションを行い評価。

主要教材図書

.....

参考図書

.....

その他資料

映像資料、スライド

授業の特徴と担当教員紹介

スタイリスト、デザイナー、アートディレクターの経験をもとに、デザイナーにとって最も必要であるプレゼンテーション能力を実際のプレゼンテーション資料作成を実習しながら授業を実施

記載者書名欄 小林 大輔 Die-co★(ダイコ★)

2022年度 カリキュラム科目概要

文化服装学院教務部

科コード	K03	科名	アパレルデザイン科3年	単位	1
科目コード	300900	科目名	アクセサリー	授業期間	後期

担当教員(代表)：中川 清美	共同担当者：
----------------	--------

教育目標・レベル設定など
 アクセサリーは服を引き立たせるための小道具である。新しい素材を取り込み服とのコーディネートを意識したオリジナリティの高いアートアクセサリー制作、そして服作りのヒントになるよう展開している。

授業概要＝テーマ(大・中・小項目)、方法(講義・演習・実験・リサーチ・グループ活動など)、製作物、他科目との関連性、使用パソコンソフト名・ボディ種類、見学先

1. アートアクセサリー鑑賞レクチャー
 参考作品の素材説明とアイデア提案
 樹脂の扱い方 アメリカンフラワーの扱い方説明
2. アートアクセサリー制作実習
 アクリル絵の具、助剤について 塗料を使って金属の腐食した感じを出す方法の説明・中川作品鑑賞
3. アートアクセサリー制作実習
 アンティークボタン ブレードの鑑賞を通して19世紀モードについて
4. アートアクセサリー製作実習
 アールヌーボ・デコのジャンクアクセサリー鑑賞を通して 20世紀モードについて
5. アートアクセサリー製作実習 仕上げ
 シルバー粘土、リング制作実習
6. シルバー粘土について、特性・扱い方の説明
 制作実習
7. シルバー粘土リング制作実習
 作品について仕上げ・説明

評価方法・対象・比重
 作品提出 70%・授業態度 20%・出席 10%

主要教材図書

参考図書

その他資料

授業の特徴と担当講師の紹介
 フリーイラストレーター、コスチュームアクセサリー作家として幅広く活動しつつ、文化服装学院にてアートアクセサリー／イラストレーションの講師をつとめる。
 世界各国のアクセサリー資料の紹介、いろいろなアクセサリー素材、道具類の説明を含め、デザインの幅を広げ、ファッションとコーディネート提案ができるような授業内容

記載者書名欄 中川 清美

2022年度 カリキュラム科目概要

文化服装学院教務部

科コード	12202	科名	アパレルデザイン科2年	単位	1 単位
科目コード	902000	科目名	西洋美術史	授業期間	後期

担当教員(代表)：布施伊織	共同担当者：
---------------	--------

【授業概要、到達目標・レベル設定】
 複雑な成立過程を孕むようになった近代の西洋美術作品を中心に解説。単純に美術作品を紹介するのではなく、なぜそれらの傑作が生まれたのか、芸術家がどういう意図で作品制作を行ったのかを考察することで、クリエイションの方法論を探り、デザイン発想の引き出しを増やすことにつなげる。

【授業計画】 テーマ(大・中・小項目)、方法(講義・演習・実験・リサーチ・グループ活動など)、製作物、テーマ別所要コマ数、他科目との関連性、使用パソコンソフト名・ボディ種類、見学先

テーマ	方法	コマ数
美術史的アプローチ方法の解説	座学	1
新古典主義、新たに成立した風景画、ロマン主義の哲学、芸術のメッセージ性(クールベ、マネなどを通じて)	座学	1
芸術の純粋性とは。印象派、ポスト印象派を通じて	座学	1
変容した絵画概念。セザンヌ、ゲシュタルト心理学などを通じて	座学	1
装飾概念の解説、キュビズムとフォービズム、表現主義。	座学	2
素材、表現スタイルなど芸術の多様化。デュシャンなど	座学	1
ハウハウス概説	座学	1
ポスト芸術。ポロックやウォーホルなど	座学	1
現代アート概説	座学	2
課題説明、実習	座学	1
実習、提出	座学	1

【評価方法】
 出席率、授業内レポート、最終回のデザイン発想実習

授業の特徴と担当教員紹介
 慶應義塾大学文学部美学美術史学専攻卒。文化服装学院アパレルデザイン科卒。アパレル企業勤務を経て、アスリートマネジメントを行う会社に勤務。教養だけで終わりがちな西洋美術史の知識を、発想にいかせるように伝えることを目指す。

主要教材図書
参考図書
その他資料

記載者氏名 布施伊織

2022年度 カリキュラム科目概要

文化服装学院教務部

科コード	KC3	科名	アパレルデザイン科3年	単位	1
科目コード	902800	科目名	美学	授業期間	後期

担当教員(代表) :	小林 大輔 Die-co★(ダイコ★)	共同担当者 :	
------------	---------------------	---------	--

教育目標・レベル設定など
西洋美術の歴史を学びながら、実際のデザイナー達がどのようにアートにインスパイアされてコレクションをクリエイトしているかを、実例をあげながら学ぶ。

【授業計画】
テーマ(大・中・小項目)、方法(講義・演習・実験・リサーチ・グループ活動など)、製作物、テーマ別所要コマ数、他科目との関連性、使用パソコンソフト名・ボディ種類、見学先

毎回の授業でPCを使用して解説をし、その時代の特徴を強く表現したアーティストのプロモーションビデオや映画等の紹介も含め、美術に対する関心をより深め、西洋美術の流れを学ぶ授業を目指す。

1、	オリエンテーション	講義	1コマ
2、	古代文明の誕生	講義	1コマ
3、	エジプトからギリシャ	講義	1コマ
4、	古代ローマ	講義	1コマ
5、	中世美術	講義	1コマ
6、	ルネサンス	講義	1コマ
7、	バロック	講義	1コマ
8、	ロココ	講義	1コマ
9、	新古典主義	講義	1コマ
10、	印象派	講義	1コマ
11、	世紀末の美術	講義	1コマ
12、	アール・ヌーボー・アール・デコ	講義	1コマ
13、	20世紀初頭の美術・現代美術	講義	1コマ

※アートをテーマにした30枚のデザイン発想を提出

評価方法・対象・比重
出席・提出物 100%

主要教材図書
参考図書
その他資料
ファッション情報誌、映像資料、スライド

授業の特徴と担当教員紹介
スタイリスト、デザイナー、アートディレクターの経験をもとに、西洋美術の歴史を学びながら、実際のデザイナーたちが、どのようにアートにインスパイアされてコレクションをクリエイトしているか実例を挙げながら授業を実施

記載者書名欄 小林 大輔 Die-co★(ダイコ★)